

2025年8月27日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第5戦鈴鹿、獅子奮迅の6位フィニッシュ



SUPER GT 第5戦鈴鹿レポート

2025 SUPER GT 第5戦「SUZUKA GT 300km RACE」(8/23-24) 鈴鹿サーキット(1周5.807km)

入場者数：予選19,000名、決勝29,000名 合計48,000名

8月24日(日) SUPER GT 第5戦「SUZUKA GT 300km RACE」の決勝が行われ、逆境のクラス最後尾から進取果敢に勝利を目指したスタート担当の関口は、白熱した序盤で前を攻め立てながらもクレバーに燃料をセーブしながら虎視眈々とチャンスを窺う走り。他車のほとんどがミニマムでピットインするのを見るとフルプッシュで数秒単位で前とのギャップを削る鬼神の追い上げ。非常に速いペースでステイント終盤には連続で49秒台を叩き出す見事な走りですべてピットイン。トップペースの関口の走り、素早く短いピットワークと一連のチームワークで8位付近に合流するオーバーカット戦略を見事に完遂させ、実に5台を抜き去った。その後はサツシャが怒濤の追い上げで次々と前走車をオーバーテイクするマクリの走り。途中FCYが入って水を差されたが、15番グリッドからスタートして9台をかわす獅子奮迅の6位フィニッシュを果たした。ドライバーポイントは5点(計29点)を獲得、チームポイントは8点(計44点)を獲得し、ともにランキング6位に浮上。次戦第6戦は、9月20日(土)・21日(日)にスポーツランドSUGOにて300kmレースとして開催される。

■ 事前情報

今季第5戦は、後半への折り返しとなる真夏の「SUZUKA GT 300km RACE」。前戦富士スプリントの2レースで決勝結果5位&4位となって、現在チームランキング6位につけているDENSO KOBELCO SARD GR Supra。レースフォーマットは通常に戻り、8月23日(土)午前公式練習、午後ノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選、24日(日)決勝は15時30分スタート。レース距離は、300km(52周：約2時間)で争われ、ピットストップは1回で1人のドライバーの最大運転周回数は34周まで。サクセスウェイトは、現獲得ポイントの倍となる48kgを搭載する。重量増による鈴鹿でのタイムの落ち込みは、48kgだと約1秒ほど。タイヤの持ち込みセット数はドライ4/ウェット6セットで、決勝スタートまで使えるドライのマーキングはそのうち4セットとなる。今大会はハード側3セット、ソフト側1セットで持ち込んだ。



今回、23日(土)夕方のキッズウォーク後には恒例のファンミーティングを鈴鹿サーキット内レストランSUZUKA-ZEで行い、ファンとの交流を深める。また、今回の第5戦には、チーム本拠地に近いため株式会社デンソーさま、株式会社神戸製鋼所さまを筆頭にチームパートナー/ゲストなどの応援者が総勢140名ほど大挙して訪れ、大きな後押しとなる応援を支えに臨む。シリーズタイトル争いに加わるためには、この後半戦の緒戦は一步も後に引けない状況であるが、ドライバーの速さを活かしてチームワークとピット戦略など総合力によって最大ポイント獲得の結果が望まれるところ。激しくタフな戦いを強いられると予想されるが、心強いサポーターの声援をチカラに、脇阪寿一監督のもとチーム一体となって、積極的に取り組み、強い決断力で冷静かつ大胆に振る舞い、進取果敢に勝利を目指していった。

■公式練習走行

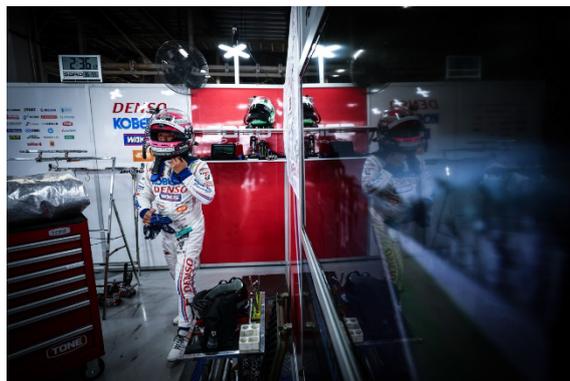
23日（土）予定より10分遅れの10時20分から開始された公式練習走行は、気温32度/路面温度38度で真夏の日差しが照りつけるコンディション。最初の85分間の混走セッションでは関口が、路面コンディションが落ち着いた頃を見計らって、まず持ち込んだ中でハード側のドライタイヤを装着して7周ほどクルマとタイヤを確認。6周目に1分48秒182でその時点で6番手タイムを記録。赤旗中断を挟んでセット調整の後にサッシャが15周目から同じタイヤのまま走行。途中セット調整を施しながらショートランと長めのアウティングでクルマのバランスやペースを確認した。FCYテストを挟んだ混走セッションはトータル28周を走り込み、関口が6周目にマークした1分48秒182のタイムのまま7番手となった。

10分間のGT500単独セッションでは、いっそう日差しが強くなり、気温34度/路面温度48度に上昇。サッシャが新品のソフト側のドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを実施。この単独セッションでは5周を走行。さきの混走セッションのベストタイムからは、セクター2と4の区間タイムを更新して3周目の1分48秒120が単独セッションのベストタイムとなった。結果、公式練習走行はトータル33周を走行して、単独セッションでのベストタイム1分48秒120により10番手となった。午後の公式予選を戦うには予想される予選コンディションへの合わせ込みが更に必要があるということからインターバルで、よりアグレッシブに見直しを図ることとした。

■公式予選

■Q1：関口がQ1でまさかの15位に

23日（土）15時48分から開始されたQ1は気温34度/路面温度47度と猛暑となった最高気温時からは数値的には下がり始めたが、そのままの暑さを感じるコンディションの中、関口は持ち込んだ中でハード側のタイヤを装着。クルマも午前中のセットから午後の予選に向けて調整をした中、じっくりと丁寧にタイヤを温めるウォームアップを4周実施し、予定通り5周目にアタックを開始。48kgのウェイトを積みながらセクター1、2を見た目は元気よく駆け抜けた様子であったが、他車と比べて区間タイムがいま一つとなった関口。クルマの善し悪しが分かりやすいセクター3でも遅れてしまい、セクター4を遜色ないタイムで駆け抜けたが、結果は1分47秒125と想定よりも遅れ、まさかの15番手タイム。はっきりとした不具合はないものの、全体的にスピードが不足する何かの不具合があったと予想され、明日の決勝へ向けてクルマをイチから検証することとなった。



■TGR TEAM SARD FAN MEETING 2025 in SUZUKA

23日（土）キッズウォーク後に恒例となった鈴鹿サーキット内レストラン「SUZUKA-ZE」にてファンミーティングを開催。約80



名のファンに囲まれ、関口、サッシャ、脇阪監督、近藤チーム代表が出演。KOBELCO GIRLS、SARDイメージガール、WAKO'S GIRLSのレースアンバサダーが華やかに彩り、トークショーやクイズ「サード王は誰だ！」「お楽しみクジ」で、誰もが笑顔でいっぱい楽しい真夏の夜のひとときをファンと一緒に過ごし、激熱の声援で大きなチカラと元気をもらった鈴鹿決戦前夜となった。

■決勝

■ウォームアップ走行

24日（日）14時から開始された20分間のウォームアップ走行は、気温36度/路面温度52度で連続の猛暑日となった鈴鹿。最初に関口がタイヤのベディングと確認走行し、続いてサッシャが2周目から最後まで走行。ウォームアップはトータル9周を走行して、サッシャが6周目にマークした1分50秒845の12番手で決勝への準備を整えた。

■決勝レース

第1スティント：関口がトップペースでオーバーカット

28日（土）、14時10分決勝スタート時点は気温35度/路面温度51度の中、逆境のクラス最後尾から進取果敢に勝利を目指したスタート担当の関口は、白熱した序盤で前を攻め立てながらもクレバーに燃料をセーブしながら虎視眈々とチャンスを窺う走り。最初のセーフティカー(SC)導入により、300クラス集団との巡り合わせが遅くなったラップダウントラフィックを避け、2回目のSCRリスクも背負いながら、ピットインを遅らせて引っ張る作戦を敢行。他車のほとんどがミニマムでピットインするのを見ると13位の関口はフルプッシュで数秒単位で前とのギャップを削る鬼神の追い上げ。非常に速いペースでスティント終盤には連続で49秒台を叩き出す疾風の走り。次の300トラフィックを避け、最大運転制限2周前の32周を終えピットに関口を呼び戻した。



第2スティント：サッシャがマクリの走りで怒濤の追い上げ

トップペースの関口の走り、素早く短いピットワークと一連のチームワークでいったん8位付近に合流するオーバーカット戦略を見事に完遂させ、実に5台を抜き去った。アウトラップで一旦2台にかわされたが、タイヤが温まるとサッシャが怒濤の追い上げで次々と前走車をオーバーテイクする正にマクリの走り。途中FCYが入って追撃に水を差された格好となったが、15番グリッドからスタートして9台をかかわす、獅子奮迅の戦いで見事に6位フィニッシュを果たした。



ドライバーポイントは5点（計29点）を獲得、チームポイントは8点（計44点）を獲得し、ともにランキング6位に浮上。次戦第6戦は、9月20日（土）・21日（日）にスポーツランドSUGOにて300kmレースとして開催される。

■ 関口 雄飛



「チームの本拠地に近いとあって応援に駆けつけてくれたスポンサーやファンの皆様のたくさんの御声援をありがとうございました。予選の結果は厳しいものでしたが、ファンミーティングで元気をもらって、また、決勝までにチームが問題を解決してくれたおかげで非常にペース良く走れましたし、戦略も上手く行って挽回することができました。今回の良くなった要因やクルマをしっかりと検証して、次のSUGOで最大のポイントを得られるように準備をしていきたいと思いますので、引き続きの温かい御声援をよろしくお願い申し上げます」

■ サッシャ・フェネストラズ



「最後尾からのスタートだったけど、チームが大きな改善をクルマに施してくれ、戦略も上手く行って良かった。自分のドライブの時はたくさんオーバーテイクでき楽しんだし、順位が上がっていく状況にエキサイトしながら、リスクはあったけど果敢に攻められた。土曜夜のファンミーティングも僕らへのビックサポートだったね。アリガトウ、みんな！最後のFCYさえ無ければ順位をもう少し上げられたとは思うけど、それもレース。次のSUGOも好きなコースだし、今回の様に勢いある走りが出るようにガンバリマスので、応援ヨロシクオネガイタシマス」

■ 監督 脇阪 寿一



「今回も大勢のスポンサーさんやファンの皆さんから御声援を頂き、ありがとうございました。予選は上手く行きませんでした。決勝までに改善が進んで、ドライバーの走りやチームの頑張りもあって6位フィニッシュという結果が得られました。今回の戦いで順位以上に、レベルが上がった大きな収穫があったと感じています。まだまだ問題は山積みですが、クルマの準備段階も含めて細かいところまでを今後見直して、色々な課題をクリアしていければ後半戦で皆様に良い戦いをお見せできるかと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします！」

Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	16	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT #16	大津 弘樹／佐藤 蓮	1'45.377	0
2	23	MOTUL AUTECH Z	千代 勝正／高星 明誠	1'45.564	18
3	3	Niterra MOTUL Z	佐々木 大樹／三宅 淳詞	1'45.681	12
15	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	1'47.125	48

天候：晴れ、コース：ドライ

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	23	MOTUL AUTECH Z	千代 勝正／高星 明誠	1:47'10.646	52
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋 和也／福住 仁嶺	+5.768	52
3	3	Niterra MOTUL Z	佐々木 大樹／三宅 淳詞	+16.569	52
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	+22.540	52

天候：晴れ、コース：ドライ、5.807km×52Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	1	坪井／山下	58.5
2	14	大嶋／福住	48.5
3	38	石浦／大湯	43
6	39	関口／S.フェネストラズ	29

Point standings after Rd.5

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	1	TGR TEAM au TOM'S	73.5
2	14	TGR TEAM ENEOS ROOKIE	60.5
3	38	TGR TEAM KeePer CERUMO	54
6	39	TGR TEAM SARD	44

Point standings after Rd.5

Partners



情報参照先

● サード公式サイト : <https://www.sard.co.jp>

[X](#) [Facebook](#) [Insta](#) [threads](#) [YouTube](#)

● SUPER GT : <https://supergt.net/jp>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD
株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp